

むらびくり

最小の経費で最大の効果：

平成22年度の村づくりがスタートしました。村では厳しい財政状況の中、「最小の経費で最大の効果」をあげるよう、さまざまな事業に取り組んでいきます。今年度は、一般会計が28億4千万円、特別会計が12億7千117万8千円、総額41億1千117万8千円の予算になりました。【表1】

主な事業は、新事業である出産祝金支給事業(一人5万円の支給や鹿角平クロスカントリーコース整備事業、公営住宅建設事業(宿ノ入地内)などのほか、バイオマスヴィレッジ事業(堆肥センター整備)、平成21年度補正予算に計上し、前倒しして実施している村民保養施設建設事業(さざり荘)と合わせて、村民の生活に密着した予算の編成・執行を目指しています。事務事業の見直しを一層進め、経費削減に努めながら、少ない財源を有効に活用し、「まめで達者な村づくり」をはじめ、子育て支援、景気対策事業など、元気の出る村づくりを進めていきます。



一般会計

【歳入】 県支出金・国庫支出金が大幅なプラス

歳入(収入)のトップは、地方交付税(全国の自治体が一定の水準で事業が行えるように国から配分されるお金の13億9千753万9千円)、歳入全体の49.2%を占めています。地方交付税は前年度と比べると2千967万2千円(2.2%)の増額となっています。

依存財源(国や県から入ってくるお金)が前年度に比べ3億6千718万4千円(18.3%)の増額となったのは、新規の公営住宅建設や子ども手当の支給のための補助金が増えたことによる。国庫支出金8千643万1千円(12.6%)の増額や、雇用創出、たい肥センター整備などの県支出金の増額によるものです。

自主財源(村が自分の手で確保できるお金)は、前年度に比べ5千218万4千円(10.2%)の減額となりました。これは、村税(村民税や固定資産

税などが1千464万1千円(5.5%)の減額となったほか、繰入金のうち、福祉基金が3千500万円、教育施設整備基金が370万円の減額になったことなどによるものです。国や県の補助金を有効に活用し、財源の確保に努めました。【図1】【表2】

【歳出】 新規事業により 普通建設事業費が増加

次に歳出予算を見てみましょう。

■会計別予算の状況[表1]

会計別	予算額	対前年度比	伸び率(%)
一般会計	28億4,000万円	3億1,500万円	12.5
特別会計	12億7,117万8千円	2,388万3千円	1.9
国民健康保険	4億7,200万円	△900万円	△1.9
事業勘定直診勘定	8,800万円	0円	0.0
老人保健	15万4千円	△4万8千円	△23.8
簡易水道事業	8,171万7千円	△250万9千円	△3.0
村営バス事業	809万4千円	73万4千円	10.0
集落排水事業	3,041万3千円	△33万3千円	△1.1
介護保険	4億800万7千円	4,256万4千円	11.6
交流施設	1,558万7千円	△482万4千円	△23.6
学校給食センター	1億3,351万6千円	△166万2千円	△1.2
後期高齢者医療	3,369万円	△103万9千円	△3.0
予算総額	41億1,117万8千円	3億3,888万3千円	9.0

■一般会計歳入予算の状況[表2]

区分	予算額	構成比(%)	対前年度比	伸び率(%)
自主財源	4億6,091万円	16.2	△5,218万4千円	△10.2
村税	2億5,347万5千円	8.9	△1,464万1千円	△5.5
繰入金	1億2,257万4千円	4.3	△3,839万円	△23.9
使用料及び手数料	3,560万7千円	1.3	△100万6千円	△2.7
繰越金	2,000万円	0.7	0円	0.0
その他①	2,925万4千円	1.0	185万3千円	6.8
依存財源	23億7,909万円	83.8	3億6,718万4千円	18.3
地方交付税	13億9,753万9千円	49.2	2,967万2千円	2.2
村債	3億1,350万円	11.0	1億1,860万円	60.9
県支出金	4億3,049万2千円	15.2	1億3,658万1千円	46.5
国庫支出金	1億5,464万9千円	5.4	8,643万1千円	126.7
その他②	8,291万円	2.9	△4,100万円	△4.7
計	28億4,000万円	100.0	3億1,500万円	12.5

※その他①=分担金及び負担金、財産収入、寄附金、諸収入/その他②=地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、株式譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、地方特例交付金、交通安全対策特別交付金

■一般会計目的別歳出予算の状況[表3]

区分	予算額	構成比(%)	対前年度比	伸び率(%)
農林水産業費	5億4,363万8千円	19.1	1億3,232万5千円	32.1
民生費	5億4,013万2千円	19.0	1,168万1千円	2.2
総務費	4億1,797万3千円	14.7	2,172万4千円	5.5
公債費	3億7,745万4千円	13.3	△200万1千円	△0.5
衛生費	2億6,271万3千円	9.3	838万9千円	3.3
教育費	2億3,074万3千円	8.1	△2,431万2千円	△9.5
土木費	1億9,446万5千円	6.9	1億2,119万9千円	165.4
消防費	1億2,231万6千円	4.3	957万円	8.5
商工費	5,779万8千円	2.0	2,610万6千円	82.4
議会費	4,691万1千円	1.7	△83万1千円	△1.7
その他	4,585万7千円	1.6	1,115万円	32.1
計	28億4,000万円	100.0	3億1,500万円	12.5

※その他=災害復旧費、労働費、予備費

■一般会計性質別歳出予算の状況[表4]

区分	予算額	構成比(%)	対前年度比	伸び率(%)
人件費	6億2,913万4千円	22.2	△3,973万3千円	△5.9
普通建設事業費	5億2,650万9千円	18.5	2億7,997万9千円	113.6
補助費等	4億509万7千円	14.3	1,680万円	4.3
物件費	3億8,589万4千円	13.6	1,470万8千円	4.0
公債費	3億7,745万4千円	13.3	△200万1千円	△0.5
繰出金	3億866万1千円	10.9	947万9千円	3.2
扶助費	1億8,554万5千円	6.5	3,326万円	21.8
維持補修費	701万5千円	0.2	△17万3千円	△2.4
その他	1,469万1千円	0.5	268万1千円	22.3
計	28億4,000万円	100.0	3億1,500万円	12.5

※その他=災害復旧費、投資及び出資金、貸付金、積立金、予備費

目的別では、農林水産業費が5億4千363万8千円(19.1%)と最も多く、次いで民生費の5億4千13万2千円(19.0%)、総務費の4億1千797万3千円(14.7%)、公債費の3億7千745万4千円(13.3%)、衛生費の2億6千271万3千円(9.3%)と続いています。【図2】【表3】

一方、性質別では、人件費が6億2千913万4千円(22.2%)と最も大きくなっていますが、前年度と比べて3千973万3千円(5.9%)の減額と

なっています。次いで、普通建設事業費の5億2千650万9千円(18.5%)、補助費等の4億509万7千円(14.3%)、物件費の3億8千589万4千円(13.6%)の順に続いています。普通建設事業費が前年度に比べ2億7千997万9千円(113.6%)の増額となっていますが、これは、ゆうきの里づくりを目指すバイオマスヴィレッジ事業の施設整備、新規事業として、公営住宅建設事業(宿ノ入地内)や鹿角平クロスカントリーコース整備事

業などが増えたことによるものです。【図3】【表4】

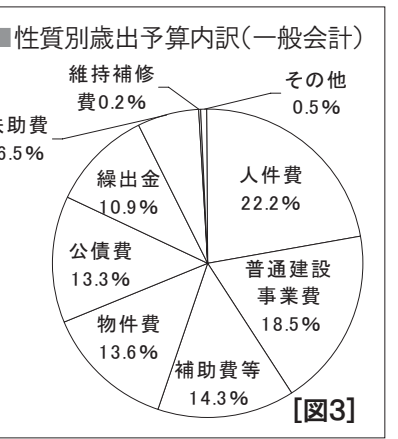
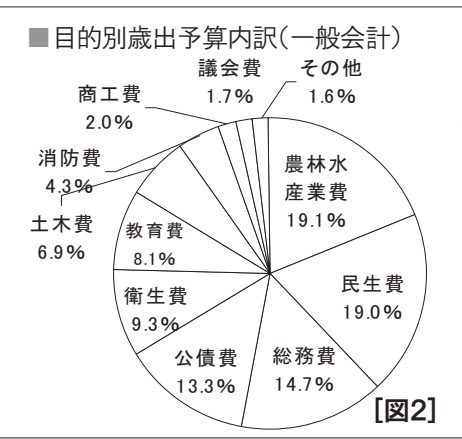
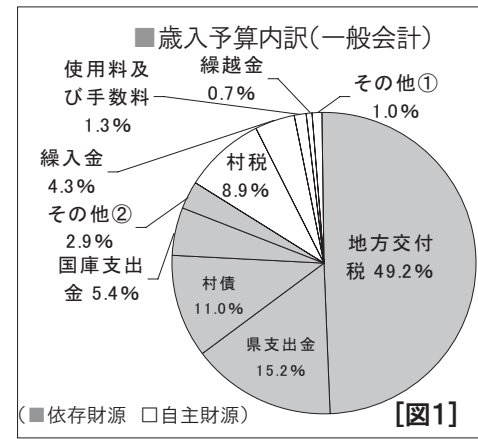
特別会計とは、特定の事業を特定の収入で行うために、独立して設けた会計をいいます。平成22年度は、国民健康保険(事業勘定・直診勘定)、老人保

全体で 対前年度2%の減

健康、簡易水道事業、村営バス事業、集落排水事業、介護保険、交流施設、学校給食センター、後期高齢者医療の9つの会計で運営します。

これら特別会計予算の総額は12億7千117万8千円となり、前年度に比べ2千388万3千円(1.9%)の増額となりました。

このうち、介護保険特別会計が4千256万4千円(11.6%)の増額となったのは、地域密着型介護サービスの利用者が増えることによるものです。【表1】



全会計総額 約41億1,117万8千円 [対前年度比 3億3,888万3千円(9.0%)減]

主な事業概要④

＜農村の人づくりと産業ビジョン＞
地域から世界を見ることができる人材を育成し、消費者と生産者の密接な関係を構築する村の実現

【学校教育の充実】

- 基礎学力向上推進支援事業(学習支援員ほか) 407万4千円
- ふるさと後継者育成事業(中学校修学旅行助成) 49万円

【健康づくり・自主的スポーツ活動】

- ふくしま駅伝実行委員会補助 142万6千円
- 農業者トレーニングセンター施設修繕事業 517万円
- 鹿角平クロスカントリーコース整備事業【新規】 2,670万4千円

【安心安全、顔の見える農業の振興】

- 中山間地域等直接支払交付金事業 1億2,530万8千円
- 水田作付条件整備事業(暗渠排水) 200万円
- バイオマスヴィレレッジ事業(施設整備) 1億6,908万6千円
- 肉用牛生産振興事業(輸送経費補助、ヘルパー補助) 170万円
- 優良牛整備増殖事業 120万円
- 有機農業普及指導員設置事業 250万円

【ふるさとの森を守り育てる】

- 松くい虫防除事業(被害木伐倒駆除) 426万9千円
- 県単治山施設事業(1地区)【新規】 420万1千円

【商工業の振興】

- 商工業振興事業(商工会補助など) 333万8千円

【村の特徴を活かした観光の振興】

- 観光推進事業(うまいもの祭り補助) 170万円

【その他】

- 地籍調査事業(大戸中地区) 980万9千円
- 雇用対策事業 3,903万3千円



主な事業概要③

＜農村の暮らしビジョン＞
みんなが安心して生活できる村の実現

【安心生活ができる公共交通づくり】

- 生活バス路線運行費 890万円
(福島交通バス運行費補助、村営バス繰出金)

【安心生活を支える情報】

- 携帯電話用鉄塔施設整備事業【新規】 5,080万円
(塚本、岫長、蕨ノ草、中沢地区)
- 高度情報化事業(白河広域ネットワーク負担金など) 1,398万2千円

【多様な暮らしの工夫】

- 公営住宅建設事業【新規】 9,830万円
(宿ノ入地内、木造2階建て3棟6戸)

【火災と災害への備え】

- 常備消防負担金 7,501万8千円
- 消防施設整備事業(小型動力ポンプ更新ほか) 1,419万6千円

【安心生活ができる保険・医療・福祉の充実】

- 住民健康診査事業(基本健診、がん検診など) 1,559万1千円
- 予防接種事業(乳幼児予防接種、新型インフルエンザなど) 422万2千円

【安心生活ができる高齢者の保健と福祉の充実】

- 高齢者生活支援事業(緊急通報システム借料、紙おむつ給付) 585万6千円

【子育て支援体制づくり】

- 乳幼児紙おむつ給付事業 370万円
- 保育業務 8,927万6千円
- こどもセンター費(子育て支援事業など) 2,452万1千円

●こども医療費助成事業(社保・国保)

- 妊産婦医療費助成事業 1,091万6千円
- 妊婦一般健康診査 63万1千円
- 妊婦一般健康診査 290万1千円
- 幼稚園児教育費 3,397万2千円
- 放課後児童クラブ事業(運営費) 274万2千円
- 出産祝い金支給事業【新規】 175万円
- 子ども手当【新規】 6,474万円

【障害者の支援体制づくり】

- 重度障害者支援事業費(重度心身障害者医療費) 1,017万4千円
- 障害者福祉事業費 8,131万7千円
(障害者自立支援給付費、身体障害者更生医療給付費など)

主な事業概要②

＜農村の環境ビジョン＞
自然や動植物と共存し、農村環境を創る村の実現

【道路網・道路環境の整備】

- 村道遠ヶ竜戸草線改良事業 3,265万2千円
- 村道維持補修・国県村道除草作業、日陰林対策 2,465万7千円
- 県単林道改良事業(林道上大塩見渡線) 620万円
- 県営農道整備事業負担金 866万7千円
- 林道開設事業(2路線)【新規】 5,750万円
- 村道馬場後田中線舗装事業【新規】 300万円

【水を大切にし、環境に配慮した排水の処理】

- 合併処理浄化槽整備事業(7人槽20基、単独槽撤去10基) 925万7千円

【その他】

- 東白衛生組合・東白斎苑運営費負担金 7,204万2千円

平成22年度予算編成方針

国の経済は、一昨年秋の金融バブルの崩壊による経済不況から回復しておらず、企業業績の急激な悪化と雇用不安から、税収の大幅な減少が見込まれています。現在デフレ状況(物価下落～安売り競争)の進行が懸念されており、平成22年度の税収が一段と厳しい状況になる恐れがあります。今後これらの動向を注視し、本村の財政運営を見極めていかなければならない状況下にあります。

また県においては、「三位一体改革」とそれに続く「歳出・歳入一体改革」の影響をもちに受け、歳出の抜本的な見直しを余儀なくされています。

厳しい財政状況のもと、本村が将来にわたり持続可能な財政バランスを保ちつつ発展していくためには、健全で安定した財政基盤の確立のもと、住民が未来に向かって明るい希望を持てるような施策や事務事業を効果的、効率的に展開していくことが求められています。

すべての事務事業を見直し、費用対効果をしっかりと見極め、緊急性や優先度を明らかにしながら施策の選別と重点化をすすめ、職員一人ひとりの創意と工夫により、少ない財源を効果的に活用し、第3次鮫川村振興計画の村づくりの目標である4つの主な事業の実現のために施策を推進するとともに、将来にわたり村が自立していくために財政の健全化を一層推進することを基本方針とします。

鮫川村長 大樂 勝弘

主な事業概要①

＜農村の再生ビジョン＞
独自の優れた資源を発見し、みんなで知恵を出し、心豊かに暮らし続けられる村の実現

【環境と健康を食べる】

- 大豆振興対策事業 1,477万5千円
(大豆種子購入、大豆購入補助など)
- 農村振興事業 194万6千円
(グリーンツーリズム推進、米粉・エゴマ商品開発など)

【農村の景観と文化を生かす】

- 緑のふるさと協力隊事業 211万4千円
- 森林環境税交付金事業(重点枠事業：児童生徒用机天板購入) 176万4千円

村民1人当たりに使われるお金は
675,065円【80,107円】です。

【一般会計歳出予算額：平成22年3月1日現在の人口4,207人で計算。【 】内は対前年比。平成21年度は平成21年3月1日現在の人口4,244人で計算。】

農林水産業費	農林業の振興や農林道の整備などのためのお金	129,222円 【32,306円】
民生費	高齢者や子ども、障害者などの福祉のためのお金	128,389円 【3,872円】
総務費	選挙、戸籍、徴税、広報紙発行などのためのお金	99,352円 【5,985円】
公債費	地方債(村の借入金)を返済するためのお金	89,720円 【310円】
衛生費	保健事業や予防接種、環境衛生などのためのお金	62,447円 【2,521円】
教育費	学校教育や生涯学習、体育振興などのためのお金	54,847円 【△5,251円】
土木費	道路や橋、住宅を整備・維持するためのお金	46,224円 【28,961円】
消防費	消防施設の整備や消防団活動のためのお金	29,073円 【2,507円】
商工費	商工業の振興などのためのお金	13,739円 【6,272円】
議会費	村議会運営のためのお金	11,151円 【98円】
その他	雇用創出、災害復旧などのためのお金	10,901円 【2,526円】